



くすりと健康

● 神戸市薬剤師会 ●

咳せきに効くクスリ

先日、患者さんから次のような質問を受けました。「市販の咳止めには麻薬が入っていると聞きましたか、本当でしょうか？」

市販薬で使われている咳止めの成分には、いろいろな種類があります。その中でも優れた効果を持つものが、「麻薬性鎮咳薬」と呼ばれるものです。この薬の成分は、リン酸コデインとリン酸ジヒドロコデインであり、100倍に希釈して市販薬として使用されています。このように、100倍に薄めてあるものは麻薬扱いにならないため、麻薬性ではあるが、麻薬ではないということになります。

ちなみに、希釈していない原末や10倍希釈のものは麻薬扱いとなりますので、調剤薬局でも厳重に金庫に保管し、使った量などを行政に報告する義務があります。

■ 咳止めの効果は？

リン酸コデイン、リン酸ジヒドロコデインは、100倍に薄めていても強力な咳止め効果を持っており、咳をコントロールする中枢に作用して、咳反射を鎮める働きをします。

咳は、もともと気道の異物を排除しようとする生体の防御反射の一つです。何があっても止めなければ、と必死になることはありません。しかし、ひどく咳込んで寝ることができないなど、体力を消耗するようなときは、咳止めを上手に使うことで回復に努めるのも一つの手段です。

■ 注意すべきこと

麻薬性という点、ちょっと危ない感じの響きですが、特別危険な薬というわけではありません。

ただし、便秘になることもありまますので、普段から便秘気味の人は注意が必要です。

また、リン酸コデイン、リン酸ジヒ

ドロコデインには呼吸中枢抑制作用があるため、ぜんそくを持っている方は、非麻薬性成分の薬を選んだ方がよいでしょう。

■ ぜんそくのときの咳

咳には、止めてはいけないものがあることを知っていますか？

例えば、ぜんそくの場合には、気管支が狭くなっているときに咳が止まると、痰が排せつしにくくなるため、さらに気管支内部が狭くなってしまうことがあります。このような場合は、去痰剤や気管支拡張剤が使われます。また、ぜんそく様気管支炎やぜんそくの場合には、内服薬以外に吸入薬などを併用することも必要となります。

薬の種類によっては危険な場合もありますので、単に咳が止まらないからといってすぐに薬に頼るのは危険です。かかりつけの医師や薬剤師に必ず相談してくださいね。